

皿の上にりんごが三つあり、その皿
が四つ分ではという問題もある。し
かし、一当たりの量が変わるものでは
理解ができない。

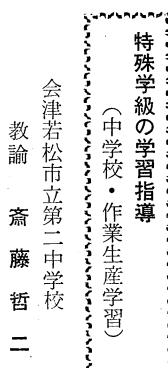
一当たりの量が変わらないもので指
導することにより、学習事項が定着し
実際に応用して、生活に活用できると
考える。

② 一当たり量の活用例（前ページ表

③ 指導の一例

教師 かえるがいましたよ。おへそは
児童 ない
教師 ないということは○ですね。か
えるが五ひきいると、へそは
児童 ない
教師 5×0は0になりますね。

以下略



最近の特殊学級（精神薄弱）の生徒
は、どこの学校でも障害が多様化し、
低IQの傾向が見られるようになって
きている。

生徒の行動や、学習への取り組みを
見ても、教科学習での指導強化よりも
日常生活面での習慣や、つまりの指導が
先行しなければならない。また、一人

一人の生徒の行動様式が異なるので、
その生徒にあつた指導の手立てを工夫

し自立から自律につながるような学習
指導がより一層必要ではないかと思わ
れる今日この頃である。

本校の学習指導の中で、特徴のある
作業生産学習を中心にして、実態を記
してみたい。

一 本校特殊学級の概要

(一) 沿革

昭和三十四年四月、精神薄弱特殊學
級一学級が開設されこれを職業学級と
呼称する。その後四十七年、六学級六
十八名をピークとし、生徒数は減少し
てきて現在は三学級二十六名、特殊學
級担当者四名で指導にあたっている。

区分 学年	生徒数			知能公表 (TK式田中B式)					備考
	男	女	計	1Q 44未満	44~50	51~75	76~85	86以上	
1	5	1	6	2	1	1	•	2	○自閉症の傾向 ○微細筋肉症 ○精神症の傾向 ○欠損家庭
2	4	5	9	2	2	4	1		○先天性股関節脱臼 ○先天性膝状刺離（左眼） ○グラン症状群 ○脳内出血（入院中） ○欠損家庭 ○施設より通学
3	2	9	11	4	1	4	2		○脳波異常（含てんかん） ○グラン症状群 ○欠損家庭 ○施設より通学

表2 各教科、特別活動等の週時数

領域 統合 合科	学習形態	週時数	学級集団
	生活単元学習	2	学級別
教科学習	作業生産学習	8	班編成
	国語	4	能力別 学級編成
	社会	2	
	数学	4	全学年
	音楽	2	
	美術	3	学級別
	保健体育	3	全学年
特別 活動等	学級会活動	年間13	学級別
	生徒会活動	年間13	全校
	クラブ活動	1	希望クラブ
	学級指導	1	学級別

(一) 生徒の実態

本校の生徒は、若松市内の小学校九
校から入学する生徒が中心で、自転車
通学六名、バス通学七名と遠距離から
の通学生が多い。生徒のようすは表の
とおりである。

(二) 本校の教育課程

前記生徒の実態を考慮しながら、次
のように編成している。

(1) 学校の教育目標

- 確かな学力を持つ生徒。
- 正しい判断力をもつ生徒。
- たくましい体力をもつ生徒。

(2) 学級の目標

なにごともがんばります。
はつきりはなします。

。きまりをまきます。
からだをじょうぶにします。

。始めたことはあきらめずに。
。仕事はていねいに最後まで。

。返事、報告はきちんという。
。自分のいいたいことを話す。

。約束を破らない。
。天気のよい日は外で遊ぶ。

。入浴や着替えをきちんとする。
。先生のいいつけを守る。

。ふまえて、生徒の実態に即した指導が
できるよう編成する。

(三) 道徳教育の取り扱いの概略

本校教育目標の具現化を目指し、盲
学校、聾学校及び養護学校小学部・中
学部と小学校、中学校学習指導要領の
趣旨、県の重点施策、市の努力目標を
ふまえて、生徒の実態から道徳の時間と特設
できるよう編成する。

(四) 各教科、特別活動等の週時数 (表
3)

各時間、各場所で、生徒間と教師の人
間関係を深めながら、自律的、自主的
な生活態度の育成を図るようあらゆる
機会をとらえ指導する。

三 作業生産学習の年間計画と実践

生徒達は知的教科の学習よりも、総
合的な学習訓練のできる作業生産学習
の指導を充実することにより、将来の
職業生活に必要な知識、技能、態度を